

名取・岩沼・亘理・柴田・大河原 地域みっちゃく生活情報誌®

東証一部・名証一部 [証券コード: 2139]

なうてい!

2016
May
vol.07 **5**

発行部数 **57,000部**
(無料各戸配布 55,300部 無料投函 1,700部)

なうてい!の中広は、東証一部・名証一部に上場しました [証券コード: 2139]



巻頭特集 金属精密部品メーカー (株)岩沼精工

追求する「ものづくり」の心技



グルメ企画 花より団子な皆さんへ「さくらdeランチ」

特集 みんなの放課後活動「みんな活」。名取市立第一中学校「美術部」

スペシャルコンテンツ マスコットキャラクターを創ろう!

巻頭特集

金属精密部品メーカー (株)岩沼精工

追求し続ける

ものづくりの心技

仙台空港から飛び立つ飛行機が間近に見える岩沼臨空工業団地の一角。量産プレス加工や金型の設計・製作で全国的に高い評価を得ている金属精密部品メーカーの(株)岩沼精工は今春で創業42周年を迎えた。4月には東日本大震災の影響で2年遅れとなった40周年記念式典を開催。更なる飛躍へと新たな歩みを踏み出した。津波による被災の苦境にも、失われることのないものづくりへの確かな情熱と技術。受け継がれる心技を取材した。



独立からの苦しい時期も妻の洋子さんと二人三脚で乗り越えてきた喜代志会長。平成25年に社長を勇退し、現在の肩書となった。モノづくりへの情熱と人情が柔らかなこの笑顔からも伝わってくる。

原点は東京の町工場

「いわゆる。金の卵。だったんだよ。集団就職でね」。㈱岩沼精工の創業者で平成25年まで社長を務めた千葉喜代志会長(71)は宮城県涌谷町の中学を卒業後、東京都内の町工場に勤めた。同社設立へと繋がるものづくりの原点である。昼間は働き、夜には定時制高校に通学。卒業とともに故郷宮城へと戻り、当時東北で最大手だった金型製造の企業で更なる技術を磨いた。

7年間の勤務を経て独立を決意したのは喜代志会長が29歳の頃。「本当作りたいものを、自分の方法で作るためには自分でやるしかない」。岩沼市出身の妻の洋子さん(65)の実家の納屋を作業場とし、昭和49年4月、のちの㈱岩沼精工となる岩沼プレス工業が創業した。



しかし、お金もなければ経営も知らない。購入した設備は月賦支払いにしたが、時にはそれすらも難しかった。

創業から3年後、初めての大仕事が入り込む。ソニー㈱からスイッチング電源の部品を受注した。前職の上司からの紹介だった。待ちに待った正念場にも当時の設備では製造できず、他社で機械を借りて三日三晩、死に物狂いで納品を急いだ。疲れ切った喜代志会長に洋子さんがかけた言葉は「もうやめたら?」。しかし、その言葉が「今まで苦労をかけた分もやらない」と喜代志会長を奮い立たせた。



喜代志会長の後を継いだ厚治社長。40歳とまだ若い従業員からの信頼は厚い。喜代志会長が大切にしていた「従業員を家族のように大切に」の言葉を胸に、会社一丸で震災からのリスタートに臨む。

その後、次第に事業は軌道に乗っていった。顧客からの要望に応え続けてきた同社の仕事ぶりは業界でも知られるようになり、作業場も納屋から新設した工場へ。現在の取引先は大小およそ100社に及び、53人の従業員を抱えるまでになった。

苦境に立ち向かい再起

平成23年、二度目の苦難をもたらしたのは東日本大震災だった。臨空にある同社にも1.5mの黒い波が押し寄せた。幸いにも従業員は皆無事だったが、ほとんどの設備が被災。総額2億円ほどの甚大な被害となった。

「さすがにもうやめようと思ったよ」。肩を落とす喜代志会長の背中を押ししたのは、洋子さんの「お金の心配はしないで、とにかくやりなさい」という叱咤。復旧作業に精を出してくれた従業員の姿も頼もしかった。多くの顧客や同業者の支えもあり、4月半ばには一部稼働7月

には全面再開と再起した。

平成25年、長男の厚治さん(40)が同社を継いだ。「独立の次は震災の苦難。順風満帆ではない時を経験してもらいたかった」と喜代志会長は真意を語るが、これに対して厚治社長は「もともとそのつもり」と笑い飛ばす。

厚治社長にとって金属加工は幼い頃から最も身近にあった存在。「いざ将来の夢になると、それしか考えられなかった」。高校を卒業して栃木県内の同業社に身を置き、遠く父の背中を追った。22歳で帰郷し、㈱岩沼精工の社員として2度目の修行に励んできた。

磨く対応力 繰り返す試作

現在、従業員の年齢は26〜67歳と幅広いが、雰囲気は「アットホーム」と異口同音。創業時から喜代志会長は「従業員を家族のように大切に」と言い続けてきた。だからこそ同社の技術を駆使し、「40年の集大成。社員より愛を込めて」と刻まれたゴルフパターを喜代志会長へ贈った。従業員は結婚には特製の指輪を作ったりもした。人を喜ばせるためのものづくりへの信念が表れる。

そんな同社のスローガンは「出来ない理由を述べるより、出来る方法を考えよう」。機械化が進む業界において、差別化に必要なのは何か。それは顧客の要望に親身に応え続ける対応力だ。どんなに短納期を求められても決して「出来ない」とは言わない。むしろ、より効率的で機能性の高い製品の提案への試作を繰り返す。

第一製造課の友健三課長。岩沼精工でモノづくりの楽しさに魅了され、「自分たちの作ったものが組み込まれた電化製品を、誰かが買ってくれる。その達成感は大きい」とその魅力を語る。



忘れられぬ楽しさに

(株)岩沼精工の事業には大きく分けて2つの柱がある。金属プレス第一製造課と、機械加工の第二製造課だ。

第一製造課長の友健三さん(39)は生粋の岩沼っ子。高校時代には同社でのアルバイトも経験し、東京都内で販売業にも就いたが、19歳で帰郷した。あの日感じたものづくりの楽しさが忘れられなかった。

家族で家電量販店に足を運ぶと、子どもたちに「お父さんが作っているんだ」と少し誇張すると苦笑するが、多くの部品で構成される家電では一つ一つのパーツが重要な役割を持つ。金属は冷たいイメージがあるかもしれないけど、そこに



は熱い気持ちで詰まっている」と力を込める。

課長として管理業務が増える中、「作業が大好きだから現場が恋しい。時間を見つけてスキルアップしないと」とどこまでも現場主義を貫く。

進化し、一歩先へ

一方、機械加工を担う第二製造課の課長を務めるのは寺嶋龍治さん(40)。幼い頃からプラモデルなどを造るのが大好きな少年だった。

「口頃から頭に入れているのは『常に進化しろ』ということ。ものづくりに終わりはない。自らの仕事にプライドを持って臨む。」

技術革新が日進月歩で繰り返される業界において「常に外部の情報を取り入れて、時代の一步先に行く。日々勉強だね」と語る。一つ一つは小さな部品にも「アントニオ猪木と言う。闘魂注入。だよ」と決して妥協はしない。

第二製造課の寺嶋龍治課長は「お客様の要望に対して『出来ない』とは言わない。出来る方法を考えて、その上で100%を目指し続ける」と熱い気持ちがみなぎる。



男性は緑、女性は赤の作業着に身を包んで業務に当たる。それぞれが互いを思いやり、時に競しく、時に寄り添って仕事に励むその姿はまさに「家族」であり、そのチームワークで精度の高い製品を生産していく。



ベテランの佐藤巨さん。幼いころから鳩や犬の小屋を自分で作るなど、工作が大好きだった。「やはり最後は人の技術。売り物としてそこには強い想いとプライドがある」と丁寧かつ迅速に作業をこなしていく。

奥深き金属の輝き

「本当に奥の深い世界。先輩の皆さん全員を尊敬しています」と語るのは最若手の伊藤千華さん(26)。秋田県内でのインテリア及びシングルの開発を経て、同社の輪に加わった。

金属加工という油にまみれたイメージがあったと言う。しかし、全然そ



岩沼精工で最若手は26歳の伊藤千華さん。先輩たちの大きな背中を「ここにいる先輩たちは皆がスペシャリスト」と尊敬の眼差しを向け、そのテクニクを1日でも早く自分のものにしようと努力を重ねる。

初心忘れず 絶えぬ情熱

んなことなくて、完成した製品は本当に綺麗」と話し、「金属の角材が形になって、さらにそこから製品の一部になるのを想像すると夢が広がる」と輝きを見つめる。
現在は上げられた図面から、マシンニングという機械をプログラミングして金属を削る作業を担う。「今後は溶接もできるようになりたい。そしていつか、学んだ技術でインテリアも作ってみたいですね」と思い描く。

若手の活躍の裏にあるのがベテランの背中。今年で33年目となる第一製造課の佐藤巨さん(54)は、「図面通りにミクロン単位の緻密な作業。恐怖感と達成感の繰り返し」と目の前の作業に没頭する。

長年の作業で身体に染み付いてくるものも確かにある。それでも「初心を忘れ

ず、今でも勉強。どうすれば早く良いものを造れるかをひたすらに考えると慢心はない。

若手へは「失敗しても諦めずに努力すること。私も最初は失敗ばかりだったけれど、めげずに乗り越えてきた。聞かれたら私たちも丁寧に答えるからさ」と目を細める。「製品への想いとプライドが私たちの原動力」。ベテランでも情熱はまだまだ若手に負けない。



積極的なアイデア創出の成果はここにも。震災後に岩沼市への復興支援として製作した精密コマ「きのこま」。売り上げの一部を寄付している。また、全日本製造業「世界コマ大戦」の2015大会では大会に向けて製造したコマで、世界3位にも輝いた。

故郷と共に新たな歩み

今年4月2日、㈱岩沼精工の40周年記念式典が震災の影響により2年遅れで催された。震災を乗り越え迎えたこの日は同社の新たなスタート。厚社長は語る。「時代に合った仕事の流れを作ること。開発に重点を置き、受注だけに頼らずに提案で強みを出していく」

その道には苦境に支えてくれた地域への感謝もある。「ここで旗を揚げた会社なのだから貢献は当然のこと。地元にも力を入れて、市の発展と共に」と故郷を思う。

大きな製品の中の小さな部品。しかし、人が支えあって生きていくように、小さな部品があつてこそ大きな製品は形作られる。(株)岩沼精工が培ってきたのは確かな技術であるが、その根本には、ものづくりを楽しみ、追求し続ける心がある。心技。心が伴う技こそが同社が誇るべき真の強みなのだ。



株式会社 岩沼精工

所在地：岩沼市下野郷字大松原 305-3
TEL：0223-29-2121
設立：1974年4月
主業務：量産プレス加工、治工具製作、金型設計製作、生産設備類の設計製作
主要取引先：ソニー㈱グループ各社、ケーヒン㈱